章のまとめ

（教科書 P.37）

❶ 等差数列 ➜ p.8，9，11

(1) 初項に一定の数を次々にたして得られる数列を $\boxed{}$ といい，

たす一定の数を $\boxed{}$ という。

(2) 初項 a，公差 d の等差数列の一般項は $a_n = \boxed{}$

(3) 初項 a，末項 l，項数 n の等差数列の和 S は $S = \frac{1}{2}\boxed{}$

❷ 等比数列 ➜ p.14，15，17

(1) 初項に一定の数を次々にかけて得られる数列を $\boxed{}$ といい，かける一定の数を $\boxed{}$ という。

(2) 初項 a，公比 r の等比数列の一般項は $a_n = \boxed{}$

(3) 初項 a，公比 r の等比数列の初項から第 n 項までの和 S は

$r \neq 1$ のとき $S = \dfrac{\boxed{}}{\boxed{}}$，

$r = 1$ のとき $S = \boxed{}$

❸ 和を表す記号 $\sum$ の性質 ➜ p.21

$$\sum_{k=1}^{n}(a_k + b_k) = \sum_{k=1}^{n}\boxed{} + \sum_{k=1}^{n}\boxed{}$$

$$\sum_{k=1}^{n} ca_k = c\sum_{k=1}^{n}\boxed{}$$ (ただし，c は定数)

❹ 自然数の和，自然数の 2 乗の和 ➜ p.23

$$\sum_{k=1}^{n} k = 1 + 2 + 3 + \cdots + n = \frac{1}{2}\boxed{}$$

$$\sum_{k=1}^{n} k^2 = 1^2 + 2^2 + 3^2 + \cdots + n^2 = \frac{1}{6}\boxed{}$$

❺ 階差数列ともとの数列の一般項 ➜ p.27

数列 a_1，a_2，a_3，… の階差数列が b_1，b_2，b_3，… であるとすると

$n \geqq 2$ のとき $a_n = a_1 + \boxed{}$

❻ 漸化式 ➜ p.30

数列で，前の項からその次の項を求める式を $\boxed{}$ という。

❼ 数学的帰納法 ➜ p.35

〔1〕 $\boxed{}$ のとき成り立つことを示す

〔2〕 $\boxed{}$ のとき成り立つことを仮定して，$\boxed{}$ で成り立つことを示す